学校と経営者の
交流活動
推進委員会

特集

大学への講師派遣をスタート
交流活動レポート'17

学校と経営者の交流活動を開始して今年で19年目を迎えた。「学校と経営者の交流活動推進委員会」と教育現場の努力により、着実にその内容が充実している。経済同友会創立70周年を機にスタートした「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」の一環として、新たに大学への講師派遣も始まった。交流活動の最新のレポートを紹介する。

INDEX

■「学校と経営者の交流活動」18年間の実績と19年目の展開 P.03
■ 2017年度から始まった大学での講演 P.04
■ 全国各地で実施している高校での出張授業 P.05
■ 拡大が続く中学校での出張授業 P.07
■ 教育関係者に向けた諸活動 P.09
■「学校と経営者の交流活動」の流れ P.11

「学校と経営者の交流活動」18年間の実績と19年目の展開

会員自らが教育現場に飛び込んで、教育者や子どもたちと触れ合い
社会の変化を発信する「学校と経営者の交流活動」は、今年、19年目を迎えた。
そして今、「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」の一つとして
さらなる発展を目指した取り組みがスタートした。

活力ある日本社会を支えていく人材の育成・教育のためにどのような貢献ができるか

経済同友会では、早くから学校教育を巡る重要課題に継続的に取り組み、改革に向けた幅広い提言を行ってきた。

このような中で1999年度、経済同友会の教育委員会（北城恪太郎委員長）は「活力ある日本社会を支えていく人材の育成・教育のために、企業・経営者はどのような貢献ができるか」を基本テーマに据え、学校教育の現状を知るために、教育現場と交流する活動を開始した。実際に行動したことで、制度改革だけでは解決できない問題、学校だけでは対応できない課題があることを痛感する。

そして2001年４月にまとめた『学校と企業の一層の相互交流を目指して～企業経営者による教育現場への積極的な参画～』では、社会全体が教育を自らの課題として認識し、具体的に行動することで一歩一歩改革を進めていく必要があるとして「企業経営者をはじめとする社会人は、積極的に学校と交流しよう」と呼び掛けた。同時に「われわれ自身にできることを一つずつでも実行していくことが社会的存在としての経済同友会の責務」とし、「学校と経営者の交流活動」（以下、交流活動）を継続していくことを宣言したのである。

今では、企業をはじめとするさまざまな機関が「出張授業」に取り組んでいる。経済同友会の交流活動累計件数も2,000件を超え、2016年度は、中学校34件、高校36件、教員・保護者20件、延べ203人の講師を派遣した。派遣先は、東京23区をはじめ、三宅島、式根島、埼玉県、千葉県、神奈川県、岩手県、宮城県、栃木県、石川県、山口県など、広域にわたっている。

2016年度に創立70周年を迎えた経済同友会は、新たに「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」を設置した。会員の枠を超え、社会のあらゆるステークホルダーと議論、対話、連携していく多様な場（テラス）をつくり、目指すべき社会像を共に模索し、政策立案に向けた叡智を結集するためのプロジェクトである。交流活動は、その中で「次世代育成・活躍の支援」を担う重要な取り組みの一環として位置付けられている。

これまで交流活動は、初等中等教育、特に中学校・高校を中心に実施してきたが、この新プロジェクトの一つとして、2017年度からは大学に活動の場を広げ、大学生を対象にした講演を開始している。今後も交流活動をより広範に、そして積極的に展開していきたい。

交流活動では、年１回、中学校を対象に「教育フォーラム」を開催している（３月）

2017年度から始まった大学での講演

大学での交流活動がスタートした。
より充実した大学生活になるよう思いを込めて
各講師が人生観や企業の取り組みを語った。

世の光となっていい人生を送るために —人生は出会いと学びの心旅—

日比谷 武（委員長／富士ゼロックス 顧問）　【昭和女子大学 国際学部】

7月13日、昭和女子大学国際学部の英語コミュニケーション学科1年生に向けて、日比谷武委員長（富士ゼロックス 顧問）が「世の光となっていい人生を送るために—人生は出会いと学びの心旅—」と題した講演を行った。日比谷委員長はこれからの大学生活に向けて、「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる。全ては自分の心が決める。4年間という貴重な時間をどう過ごすかは自分次第」「人のために尽くすことが幸せにつながる。世の光になってほしい」と語った。また、自身の経験を踏まえて、「歴史や古典に触れる、本を読む（時間の旅）、さまざまな場所に出向いて学ぶ（空間の旅）、自己と他者の関係を学ぶ（精神の旅）の三つの旅を続けてほしい」と述べた。

■学生からの感想

- 「人生では、時間・空間・精神の旅が大切だ」という話を聞き、私もその三つの旅を楽しみたいと思いました。
- 仕事は人間として成長するための機会と場を与えてくれるということが、よく分かりました。
- 自分の置かれている環境を活かすのは、自分の心の持ち方次第だと分かりました。

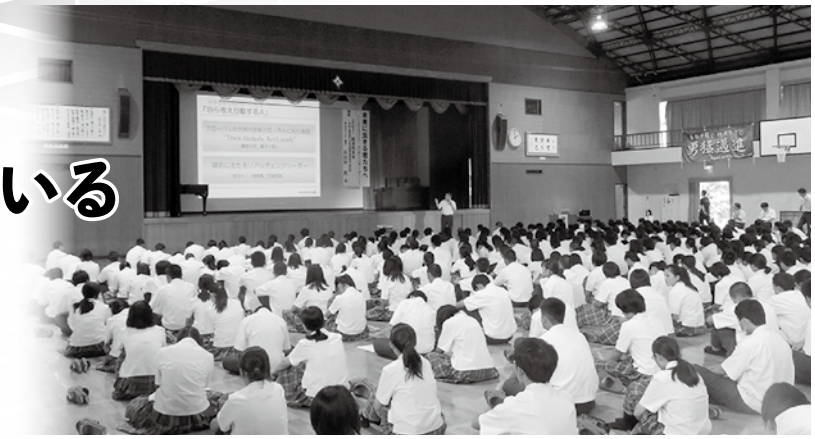
「食」や「農」のグローバルコミュニケーションを支える航空輸送

外山 俊明（ANA Cargo 取締役社長）　【龍谷大学 農学部】

2015年に、国内の大学では35年ぶりに農学部を開設した龍谷大学からの依頼を受け、7月11日、外山俊明氏（ANA Cargo 取締役社長）が講演を行った。「『食』や『農』のグローバルコミュニケーションを支える航空輸送」と題した講演では、航空貨物輸送の特徴を説明するとともに、日本の農水産物が海外から高く評価され、輸出が増加している現状を指摘し、それを担う航空貨物の最新の取り組み、国をまたぐ通信販売（Eコマース）などを紹介した。そして、「今、国と国との距離が非常に狭まってきている。それは農業の分野も同様だ。ぜひ大学で身に付けた農業やバイオテクノロジーの知識や経験を活かして、日本のみならずグローバルに活躍する人材に育ってほしい」と呼び掛けた。

■学生からの感想

- 航空輸送の重要性がよく分かり、自分の学びとの関係性に気付くことができました。
- これからは、グローバル社会の中で食品流通について考えなければいけないと感じました。
- 鮮度を保ちながら海外に輸送する困難さを理解するとともに、そのために行われている工夫の数々に感心させられました。



全国各地で実施している高校での出張授業

中学校から始まった交流活動は
高校からの依頼も増え
さまざまな地域に足を運んでいる。

未来に生きる君たちへ —いい人生を送るために、学び続けて行動してほしいこと—

日比谷 武（委員長／富士ゼロックス 顧問）　**【大分県立三重総合高等学校】**

9月5日、大分県立三重総合高等学校で日比谷武委員長（富士ゼロックス顧問）が大分県内では初となる出張授業を行った。日比谷委員長は、生徒、教員、保護者など約500人に向けて、今学ぶべきこと、働くということ、企業の使命や役割などについて、自身の経験を振り返りながら講演した。

「私が皆さんの年のころは、スポーツに夢中で勉強が嫌いだった。しかし大人になって中国で仕事をしたとき、高校時代に苦手だった古典や漢文の知識が非常に役立った」と、実は中学・高校で学ぶことは社会に出てから活かせる場面が多くあることを伝えた。

さらに「大分県は、廣瀬淡窓、福澤諭吉、瀧廉太郎ら魅力的な人をたくさん輩出している。偉人伝から学ぶことは多く、その時代背景を知ることも勉強になる」と語った。歴史から学び、多面的視点から本質を見抜く力をつけることが重要で、「自ら考え行動する人になって、さまざまな場所で活躍してほしい」と呼び掛けた。

講演後、日経STOCKリーグ*上位入賞を目指す生徒と懇談する日比谷委員長

生徒たちからは「経済同友会のことや企業や経済など、初めて聞く話が多く興味深かった」「広い視野を持ち人間的魅力がある人になりたいと感じた」「進路に悩んでいたが、幅広い視野でチャレンジをしたいと思った」などの感想が寄せられた。

また、同校の中野弘幸校長は、「貴重な機会を得て、生徒たちは普段の授業では得ることのできない多くのことを学ぶことができた」と、今回の出張授業の実現に感謝の言葉を贈った。

生徒に新たな気付きや夢と感動を与えてくれました

商業科3年生の日経STOCKリーグでの上位入賞を目指した学習の一環で経済同友会にコンタクトしたのがきっかけとなり、今回の出張授業を実施することができました。貴重な機会のため、全校講演会として開催しました。生徒たちに新たな気付きや夢と感動を与えてくれる素晴らしい内容で、教育者としても経済同友会の交流活動に大きな意義を感じました。今後も継続していきたいと思います。

商業科主任
衛藤 準 教諭

「自ら考え行動する人に」
三重総合高
経済同友会員が講演

当日の日比谷委員長による出張授業の模様を報じた大分合同新聞の記事（2017年9月9日朝刊）
※裏表紙に掲載

＊日経STOCKリーグ：日本経済新聞社主催の、コンテスト形式の株式学習プログラム

自分の可能性に気付くために

島田 俊夫（副委員長／CAC Holdings 取締役会長）　【東京都立青梅総合高等学校】

10月３日、東京都立青梅総合高等学校で、島田俊夫副委員長（CAC Holdings 取締役会長）が、同校では初となる出張授業を、２年生約240人を対象に行った。島田副委員長は、最新のAIテクノロジーを紹介しながら、変化の激しい時代に生きる生徒たちに「自分の考えを持つ」ことの大切さを伝えた。「世界の人口比率で例えれば、200人のうち日本人はたったの３人。３人の常識が197人に当てはまるだろうか」とグローバル社会とはどういうことかを説明し、異文化交流とは「違うことを前提に付き合うこと」であるとした。また海外修学旅行を控えた生徒たちに「必要なのは英語力でなく話し出す勇気」「外国人が日本人に聞きたいのは、日本のこと。自国のことを知ることが大切」とアドバイスした。さらに未来に向けて「やりたいことを見つけ目標を持てば必然的に努力できる。努力が苦手な人はいない」と生徒たちを鼓舞した。

普段の授業に増して生徒が集中していました

島内 佐知子 教諭

青梅総合高校で毎年実施している「異文化理解の授業」で、今回初めて経済同友会に出張授業を依頼しました。

生徒たちが普段の授業に増して集中して聞いている姿勢を見て、あらためて貴重なお話をいただけたことに感謝しました。

生きる力とは何か —社会が求めている本当の力—

尾﨑 哲（野村ホールディングス 代表執行役副社長 グループCOO）　【千葉県立松尾高等学校】

10月４日、今年で２回目となるSGH*指定校の千葉県立松尾高等学校での出張授業を、尾﨑哲委員（野村ホールディングス 代表執行役副社長 グループCOO）が行った。同校は約３割が卒業後に就職する。全校生徒約500人に向けて尾﨑委員は「生きているだけで喜びである」ことを伝え、「仕事とは世のため人のために役立つこと。企業は誠実で家族を大事にする人を採用したい」と語った。「人生において出会いは限られているが、『私はこの人に会わなければ今はなかった』と思う出会いがたくさんあった」と、縁を大切にすることで人生が変わると伝えた。さらに「日本人は信じるものを心の中に持っている。自分と相手だけでなく、世間もよくなければいけないという、日本人の『三方よし』の精神が、今、世界に求められている」と語り、日本人の出番だという気概と自信を持ってほしいと呼び掛けた。

机上の空論に終わらない授業が、有意義でした

木内 和夫 校長

当校では、２年前の着任後から実施しています。第一線で活躍する方による、机上の空論ではない授業を活用することで、学校を変えていきたいと考えています。「生きる」「働く」に正面から向き合った授業を受ける機会を得ることができ、非常に有意義でした。

＊SGH：スーパーグローバルハイスクールの略。国際的に活躍できる人材の育成を重点的に行う高等学校を文部科学省が指定する制度

拡大が続く
中学校での出張授業

生徒の感想文に明らかな変化を感じる
出張授業。意義と効果を知り、中学校での
出張授業が広がっている。

進路選択の基礎学習に出張授業を活用

【東京都足立区立第十中学校】

９月20日、東京都足立区立第十中学校で１年生対象の出張授業を行った。足立区からは、副校長の研修会も含め、毎年複数の中学校より出張授業の依頼を受けている。同校の早乙女雄一郎校長が、副校長を務めた前任校で出張授業が実施されていたことからその意義と効果を知り、４年前の着任と同時に第十中学校に導入した。

同校ではキャリア教育に力を入れており、１年生を対象に地域の企業などで仕事について学ぶ「職場訪問」を、２年生では実際にさまざまな職場で３日間の仕事を体験する「職業体験」を行い、３年生での進路選択につなげている。

「こうした教育の前段階として１年生を対象に出張授業を実施しています。仕事とは何か、働くとはどういうことかを経済同友会の講師の皆さんから学び、進路選択の基礎学習としています」と早乙女校長は語る。

この日の出張授業は１年生５クラス、165人の生徒を対象に実施され、５人の経済同友会会員が講師を務め、各クラスで「なぜ私たちは働くのか」をテーマに50分間の授業を担当した。

各講師は、生徒が興味を持ち、自分のこととして捉えられるよう、自身の失敗談を含めるなどしてさまざまな工夫を凝らした授業を行った。教室内を歩きながら、生徒の名前を呼んで、質問を投げ掛ける場面もあった。授業の最後には、生徒から講師への感謝の言葉が述べられた。その後、各講師は生徒たちの間に入って給食を食べながら、楽しく歓談した。

引き続き経済同友会の出張授業をキャリア教育に取り入れていきたいと語る早乙女校長

早乙女校長は出張授業導入の効果について、「生徒の感想文を読むと明らかに彼らが変化したことが分かります。以前、複数の生徒が感想文の中に『質問』を書いて提出したところ、講師の方が、直筆で一人ひとりに丁寧な返事を書いてくださり、生徒たちが非常に感激していたことがありました。経済同友会の出張授業がその後の生徒の成長に大きく影響しており、態度に落ち着きが出てきたり、学力向上につながったりと、大きな成果を実感しています」と語る。他校での評判を聞いて出張授業を申し込み、効果を感じて定期的に実施する学校もあり、その輪が広がり続けている。

授業後の給食の時間には、生徒と講師の楽しそうな様子も見られた

なぜ私たちは働くのか －働く意義・喜びとは－

お金をうまく活用してみんなを幸せにしよう

岡本 和久（I-O ウェルス・アドバイザーズ 取締役社長）

周りを笑顔にすることは世界平和の第一歩です。働いてお金を得るというのは、誰かの役に立ち、世の中を良くすることであり、お金は「感謝のしるし」です。得たお金は「使う」「貯める」「譲る（寄付）」「増やす（投資）」の四つに分けて、うまく活用することで、みんなを幸せにしてあげましょう。

■生徒からの感想

- 「笑顔は世界平和の第一歩」という言葉が心に響きました。笑顔を増やしたいと思いました。
- お金は生きるために必要なだけでなく、「感謝のしるし」でもあるということが分かりました。

与えられた情報でなく自分で調べて考えよう

小島 秀樹（小島国際法律事務所 弁護士・代表パートナー）

私はマクロビオティックという食事法を実践しています。それは、以前肺がんを患ったのをきっかけに、どうすれば健康になれるかを自分で調べた結果なのです。皆さんも、与えられた情報から物事を判断するのではなく、自分で調べて、自分で考えることを徹底してください。

■生徒からの感想

- 人に合わせてしまうことが多い私ですが、自分の意志を強く持って生きていきたいと思いました。
- 「みんなが言うからではなく、自分を信じて自分の道を進む」という言葉が心に残りました。

学校での勉強は仕事に全て役に立つ

林 明夫（開倫塾 取締役社長）

働く意義は三つあると考えます。「お客さまや社会のお役に立つために」「生活できるだけの収入を得るために」「自己実現を図るために」私たちは働くのです。学校での勉強や活動は、仕事をするときにも全て役に立ちます。教科書やノートなどは保管して、いつも見直し、学び直してください。

■生徒からの感想

- お話を聞いて、将来はお客さまを笑顔にできる仕事に就きたいと思うようになりました。
- 学校で学ぶ全ての教科が、将来の仕事に役に立つ大切なものであることが理解できました。

仕事をすれば自由に生きて自己実現ができる

林 恭子（グロービス マネジング・ディレクター）

誰かに隷属することなく自由に生きたいというのは、誰もが思うことです。それを実現するために私たちは仕事をします。また、仕事は自己実現のためでもあります。自分の能力を発揮したいと思うのは自然なことであり、それによって周囲の人たちにも感謝されるのです。

■生徒からの感想

- 自分には無理と決めつけず、自分の頭で考え、チャンスに備える力をつけたいと思いました。
- 難しい言葉もクイズ形式などで易しく説明してくれたので、よく分かりました。

「人のために動く」ことで人間的な成長を

古橋 和好（感動創造研究所 エグゼクティブ フェロー）

私たちは「生かされて」います。人は支え合って生きています。私たちは生きていくために仕事をしますが、それだけではありません。「働く」という字は、「人のために動く」と書きます。私たちが働くのは誰かの役に立つためであり、それによって人間的に成長できるのです。

■生徒からの感想

- 夢を見つけたときに努力できるように、読書を継続して、感動社会を創りたいです。
- 人のため、社会のために働く人がいると知り、僕も将来そういう働き方をしたいと思いました。

教育関係者に向けた諸活動

学校教育の現状を把握すること
社会の変化とともに求められる人材像を
伝えることなどを目的に
教育関係者との交流が続いている。

グローバルに戦える人財の育成とは？

志賀 俊之（日産自動車 取締役）　【五大市立高等学校長会】

7月7日、五大市立高等学校長会の依頼を受けて志賀俊之副代表幹事（日産自動車 取締役）が講演を行った。五大市立高等学校長会は、神戸、大阪、京都、名古屋、横浜の五市の市立高校の校長による各市持ち回りの研究会で、年に一度開催している。今回、横浜市で行われた講演には、五市の市立高校の校長約40名が参加した。

志賀副代表幹事は「グローバル企業で働くことは、オリンピックやワールドカップの出場を目指すことと同じである」とし、「国内競技である相撲も横綱の4分の3は外国人力士である」と、国内においてもグローバル化の波は避けられない現実を指摘した。

世界に展開できない日本独自の仕様の軽自動車や携帯電話を例に挙げ、日本でグローバル人材が育たない要因として、「正解だけを覚える教育の弊害（正解が分からないと発言しない、自分の意見と異なる考えを受け入れる力がない）」などがあると説明した。

正解のない時代に必要なグローバル人材とは「多様な人たちの中で自分の意見を持ち、議論できる人」「専門性や技能を持つ、もしくは多様な教養（リベラルアーツ）を持つ人」「自分の専門性とリーダーシップをValueとして成長し続ける人」「高い目標を掲げ、修羅場を呼び込み、失敗も成功の糧とできる人」などであると訴えた。

講演後の質疑応答では、多忙な現場で教員が疲弊している実態について「もっと人員や予算を投入して余裕のある職場にしなければならない」と述べた。また、大学名で採用が決まるのではないかという質問には、「日産自動車をはじめとするグローバル企業は個人の能力を見て採用している。10年以内に大きく変化するだろう」と答えるなど、活発な意見交換が行われた。

■参加者からの感想

- 人生設計の方向性を具体的に生徒に示す重要性を感じました。
- 学校がガラパゴス化しているのではないかと危機感を持ちました。
- 正解のない課題に対応する力の必要性を感じることができました。
- これから社会が求める人材像が明確に見えるようになりました。
- 子どもたちを育てる視点として、精神・心・魂を磨くという指摘が新たな気付きとなりました。
- 「多様性」をキーワードに本校の進化を図ります。
- 日本人としてのアイデンティティを持って活躍できる人材を育成していきたいと思いました。
- たくましく生き抜くことができる生徒の育成に努めたいと思います。
- チャレンジすることの大切さを生徒に伝えていきたいと思います。

質疑応答の時間には参加者からさまざまな質問が挙がった

企業経営者から見たリーダーシップ、組織マネジメント

―教育現場における管理職の役割と責務―

成川 哲夫（副委員長／日本曹達 取締役）　【全国商業教育指導者研修会】

全国商業高等学校長協会が主催する全国商業教育指導者研修会は、各都道府県の商業教育指導者を育成することを目的としている。会期中の８月９日に成川哲夫副委員長（日本曹達 取締役）が講演を行った。

全国の商業高校の管理職である教員約50人に対して成川副委員長は、「部下を活かすことによって、自分の能力の何倍もの成果を上げることができる」と管理職に専念することを求め、「部下を大切にすることが管理職の最も重要なパートである」と、組織のパフォーマンスを最大化するためのポイントを語った。

さらに「一つの会社で働き続ける時代は終わった。学習の意欲を高めるためにも自身のキャリアを描く教育が必要だ」と生徒の進路とキャリアデザイン教育の重要性などについて言及した。

■参加者からの感想

- 管理職として自分を問い直す機会になりました。
- 企業と学校のマネジメントの共通点と違いがよく理解できました。
- 部下の事情に配慮することの大切さに気付かされました。
- 管理職として適切なゴール設定が必要だという話に共感しました。
- 人間関係のあり方を考える上で、管理職である前にまず人として他者にかかわる大切さを知りました。

教育は社会を変えることができる ―人は学んで成長する―

武藤 潤（JXTGホールディングス 取締役 副社長執行役員）　【北多摩北地区公立中学校長会】

６月23日、北多摩北地区公立中学校長会の依頼を受けて武藤潤委員（JXTGホールディングス 取締役 副社長執行役員）が講演を行った。武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の６市の公立中学校長約30人を前に武藤委員は、企業や社会が求める人材、リーダーの役割、多様性の大切さなどについて語った。

「人間が社会を支えている。AI、IoTを活かすのは『人』である」「人の可能性は無限であり、教育で伸ばすことができる」など、人材育成や健康経営の取り組みが企業業績・企業価値の向上につながり、学校経営にも活かせることを紹介した。最後に「校長が熱意を持って取り組む姿は、教員や生徒、保護者などあらゆる人に伝播（でんぱ）する」「教育の可能性は無限であり、社会を変えることができる」と力強く語った。

■参加者からの感想

- 生徒を伸ばすことは企業の人材育成と同じだとよく分かりました。
- 人は学び成長することに喜びを感じる生き物であると教わりました。
- 教育基本法と企業理念は共通しているという話が興味深かったです。
- 進路指導の際に、育成すべき生徒像のイメージが深まりました。
- 教員一人ひとりが学校経営に参画するために、忌憚（きたん）のない意見交換や目標の共有が必要だと感じました。